

| | | | | | |
|----------------|--|-----------|----------------------------|-----------|-----|
| 科目名 | 旅と文学 | 科目分類 | ■ 専門科目群 □ 総合科目群 | | |
| | | | 国際観光 学科 | □ 必修 ■ 選択 | |
| | | | 学科 | □ 必修 □ 選択 | |
| 英文表記 | Travels and Literature | 開講年次 | ■ 1年 □ 2年 □ 3年 □ 4年 | | |
| | | 開講期間 | ■ 前期 □ 後期 □ 通年 □ 集中 | | |
| ふりがな | はしもと しほ | 実務家教員担当科目 | | 修得単位 | 2単位 |
| 担当者名 | 橋元 志保 | 実施方法 | ■ 対面のみ □ 遠隔のみ □ 対面・遠隔併用 | | |
| 授業のテーマ | 文学をはじめとする様々な文化が、観光による地域振興においてどのように活用されているのかを学び、観光の文化現象としての側面を理解し、考察できるようになる。 | | | | |
| 到達目標 | この授業の単位を良好な成績で修得した場合、次のような知識・能力が身につきます。 1. 聖地巡礼をはじめとする表現文化と観光振興の様々な事例に関する知識を養うことができる。 2. コンテンツ・ツーリズムや、文化現象としての観光について理解し、事例等を説明できる。 3. 文学を育んだ風土や、映像文化と地域との関係性に触れ、教養を身につけることができる。 | | | | |
| 授業概要 | 自分の好きな小説や映画、ドラマの舞台となった地方を、実際に訪れてみたいという欲求は誰でも持っているものです。本講義では、コンテンツ・ツーリズムについて学び、様々な表現文化が観光地に与えた影響力についての認識を深めます。また、東北をはじめとする日本各地に、文学者や芸術家たちが残した数多くの足跡は、その地域の文化となって根付き、多くの観光客たちを惹きつけています。文化現象としての観光を理解し、地域を活性化させるための諸条件についても考えていきます。 | | | | |
| 授業計画 | | | | | |
| 第1回 | コンテンツ・ツーリズムとは何かー物語の舞台をめぐる旅ー | | | | |
| 第2回 | 聖地巡礼と観光振興ー『君の名は』及び宮崎 駿のアニメーションを中心にー | | | | |
| 第3回 | 川端康成『伊豆の踊子』の魅力ー伊豆の美しい自然を満喫するー | | | | |
| 第4回 | 文学者が愛した伊豆の魅力ー夏目漱石の修善寺ー | | | | |
| 第5回 | 文学者が愛した伊豆の魅力ー梶井基次郎の生涯と文学ー | | | | |
| 第6回 | 藤沢周平と山形ー海坂藩の世界『たそがれ清兵衛』を読むー | | | | |
| 第7回 | 藤沢周平と山形ー海坂藩の世界『祝い人助八』を読むー | | | | |
| 第8回 | 藤沢周平と庄内映画村ー文学と映像のコラボレーションー | | | | |
| 第9回 | 夏目漱石『坊ちゃん』の松山ー観光資源としての文学ー | | | | |
| 第10回 | 夏目漱石『坊ちゃん』の松山ー道後温泉・坊ちゃん電車・坊ちゃん劇場ー | | | | |
| 第11回 | 夏目漱石と正岡子規の松山ー松山城・愚陀佛庵・子規堂・子規記念博物館ー | | | | |
| 第12回 | 『ちはやふる』の世界へようこそⅠー近江神宮と百人一首カルター | | | | |
| 第13回 | 『ちはやふる』の世界へようこそⅡーロケツーリズムと観光振興ー | | | | |
| 第14回 | コンテンツ・ツーリズムの起源ー映画『ローマの休日』と観光行動ー | | | | |
| 第15回 | <総括>物語の舞台をめぐる旅ー文学・映画・ドラマ・アニメーションの舞台と観光振興ー | | | | |
| 第16回 | 定期試験 | | | | |
| 授業時間外の 学習 | 1. 授業で取り上げる評論や小説を、指定された頁まで必ず読んできてください。また、難解な漢字や語句の意味は必ず調べておきましょう（1時間程度）。 2. 課題プリントを毎回配布しますので、授業を復習しながら記述し、提出してください（1時間程度）。 3. 授業時に紹介する小説や随筆、論文等をぜひ読んでみましよう（1～2時間程度）。 | | | | |
| 履修条件 受講のルール | 特になし。 | | | | |

| | |
|-------------------|--|
| テキスト | 資料を配布します。川端康成『伊豆の踊子』（新潮社2003年） 夏目漱石『坊ちゃん』（岩波書店1989年） 藤沢周平『たそがれ清兵衛』（新潮社 2003年）ほか |
| 参考文献・資料 | コンテンツ・ツーリズム学会『コンテンツ・ツーリズム入門』（古今書院 2014年） 増渕敏之『物語を旅するひとびと コンテンツ・ツーリズムとは何か』（彩流社 2010年）他 |
| 成績評価の方法 | 【主体的な学びの姿勢（15%）、課題の提出（25%）、試験（60%）】の総合評価とします。 ① 出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることが出来ません。 ② 出席確認時に不在だった場合、原則としてその回は欠席とします。 ③ 講義中に無許可で退出した場合は、欠席とします。 ④ 授業中の迷惑行為は厳禁です。そのような行為を繰り返し、注意しても改めない時は、履修または単位を認定できない場合があります。 |
| オフィスアワー | 火曜日（14:40～16:10）・木曜日（14:40～16:10） ※これ以外の時間は、事前に予約してください。 |
| 成績評価基準 | 秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）、不可（59点以下） |
| 実務経験及び実務を活かした授業内容 | |
| 学生へのメッセージ | コンテンツ・ツーリズムは、経済波及効果の高いニュー・ツーリズムの一種です。地域の活性化のために尽力したい人、観光行政に携わりたい人、旅行会社に就職したい人には、特にお勧めの授業です。また、文学や映画、旅が好きな人にも楽しめる内容です。一緒に、物語の舞台をめぐる旅に出掛けましょう。 |